

若年層チーム（仮）の活動について（案）

1. 趣旨

令和3年度及び令和4年度に内閣府が実施した『性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査』では、若年（20・30代）男性が職場項目に関して強い性別役割意識を有する結果¹が出ている。若年女性においても、理想のライフコースの選択を阻む要因の1つとして各種の性別役割意識が存在することが考えられる。

連携会議においては、これまでも若年層に対する普及啓発・広報に関する副教材の作成などの取組を行ってきたところ、2023-2025期においては、既存の調査等も活用しつつ、特にユース世代（16～25歳）を対象に意識を調査し、性別役割意識を生じさせる要因について検討・分析を行うとともに、それらを踏まえた児童・生徒に対するジェンダー教育の普及啓発・広報が充実されるための方策について検討を行う。

2. 活動内容

先行調査や先行研究を基に、若年層に性別役割意識を生じさせる要因について仮説を立てるとともに、仮説を検証するために追加的に必要となるデータなどについて検討を行う。

上記の検討を基に、連携会議構成団体や外部の主体等とも連携しつつ、若年層の性別役割意識に関するデータを充実させるための方策について検討・調整を行い、調査を実施するとともに、調査結果から、要因を分析する。

あわせて、上記の調査・分析を踏まえ、児童・生徒に対するジェンダー教育の普及啓発・広報が充実されるための方策について検討を行う。

具体的には以下の手順で行う。

- 先行研究・調査の分析、仮説の立案
- 仮説の検証に必要なデータの特定・入手方法の検討
- 連携会議構成団体等への働きかけ、調査の実施
- 調査結果の検討・分析
- 検討・分析結果の取りまとめ
- 調査を踏まえた、普及啓発・広報の充実に関する検討

概ね1年間を想定

（以上）

¹ また同調査結果では、男性は女性と比べて、性別に基づく役割を直接言われた、あるいは言動や態度で間接的に接した（性別役割）「経験」は少なく、伝統的な役割観（性別役割意識）に自身がとらわれていることに気づいていない可能性が示されている。